

令和8年度 第1回

進路説明会資料

令和8年6月11日(木)



入試のことを、都立高校は学力検査を行うので**受検**、私立高校は入学試験を行うので**受験**といいます。
現在(令和8年度・2026年度)の中学3年生が、令和9年度の4月に高校進学する入試なので、
「令和9年度入試・2027年度入試」といいます。

3年 組 番 氏名

目 次

進路関係 年間予定表	1
中学校卒業後の進路選択		
1. 卒業後の進路系統図	2
2. 令和7年度卒業生進学先一覧	3
3. 就職について	4~5
4. 進学について		
1. 高等学校	6~7
2. 高等専門学校	8
3. 専修学校・各種学校・		
サポート校・広域通信制高等学校	8~9
入試日程		
1. 都立高校	10~11
2. 都立産業高等専門学校	12
3. 私立入試	13
4. 私立高校と都立高校の入試日程	14
高等学校の入試制度について		
1. 入試の基本的な流れ	15
2. 都立高校の入試制度	15~19
3. 私立高校の入試制度	20~22
進路決定に向けてのポイント		
1. 自分にとってのよい学校	22
2. 学校選びのポイント	22~23
3. 進路決定への主な流れ	24~25
4. 3年生の学習の進め方について	26~28
5. 確認・その他	28
「中学校を卒業する」ということの本当の意味	29
保護者の皆さまへ	29
巻末資料1 ESAT-J について	30
巻末資料2 奨学金制度・学費負担軽減制度について	30
巻末資料3 推薦受験(検)資格認定について	31
巻末資料4 入試でよく使う用語	32

進路関係年間予定表 ※日程は、多少変わることもあります。4月の保護者会で配布したものと同じです。

期	月	学校行事	進路の関係の目標と動き	留意点	
1 学期	4月	市学力CBT (14⑤) 全国学力調査 (21,23)	・今年度に臨む心構えをつくる ・年間計画をもとに1年間の見通しを立てる	・進路決定までの流れをつかみ、1年間の見通しをしっかり持つ ・3年の学習と1、2年の復習の2本立て学習の定着	※1年間の動きを把握し、進路決定に向けての計画を立てる。 ※授業の予習や復習、1・2年の復習を進め、基礎固めをはかる。 ※家庭学習の習慣と環境づくりをする。
	5月	中間考査 (8) 体育大会 (23) 全国学力調査 (27)	☆体験入学、説明会等の申し込み開始 ・ある程度の進路目標をもつ	・学習の仕方について教科の先生などから助言を受け検討する ・自分の進路希望や目標を家族と話し合う(ある程度方向)	自分の興味関心や適性を考慮して高校を選び、実際に訪問する。 説明会等は人数制限があるので、早めに日程を確認し、予約を取ることをお勧めします。 ※各種検定を取得しておくで私立推薦や併願優遇を考える際に役に立つので、検定の日程も確認し、計画的に受験する。 ※受験(検)を乗り切る体力づくりも大切です。
	6月	期末考査 (17~19)	●第1回進路説明会 (11) ○第1回進路希望調査 ◇第1回到達度テスト (29)	・現時点での学力を正しく認識する ・今後の取り組みかたを家族と話し合い、再検討する	
	7月	授業公開 (2~4) 終業式 (17) 三者面談 (21~31)	●高校の先生の話聞く会/授業体験等 ☆夏季休業中：体験入学、説明会に参加 1、2年の内容の復習・定着	・計画的な学習と規則的な生活を再度、定着させる ・進路目標について、より具体的に先生や保護者と話しあう	
8月	始業式 (25)	○第2回進路希望調査 ◇第2回到達度テスト (28)	・興味ある学校や志望校の行事や学校説明会、学校見学や体験入学に積極的に参加する ・都立入試の傾向を研究する ・推薦希望者は早めに相談する	※今までの総復習、不得意科目の克服し、実力養成をはかる。 ※夏休み中の学校見学を踏まえ、志望校をリストアップしておく。学校見学に積極的に行く。学校説明会等を利用し、志望校を決定する。	
2 学期	9月	修学旅行 (9~11) 授業公開 (17~19) 中間考査(24,25)	☆高校の文化祭等に参加	・進路先(進学先・就職先)の希望や目標を保護者に伝え、進路希望調査表にある程度はつきり書けるように家族と話し合う ・志望校の行事や学校説明会に参加する ・志望校について、親子で意思統一をする	※三者面談前に家族とよく話し合っておく ※私立高校の推薦、併願優遇の候補校を絞り込む。 ※応用問題にも取り組む
	10月		◇第3回到達度テスト (9) ●第2回進路説明会 (28) ○第3回進路希望調査 ・面接、集団討論対策の開始 (予定)	・進路に関わる書類等を書く氏名の確認 ・資料等を参考にして、志望校の最終決定をする	※私立・都立校選択の確認。 ※入試相談の関係上、私立高校の推薦、併願優遇を希望する場合は、12月の面談で最終決定となる。推薦希望者は早めに先生に相談する。 ※受験校の必要書類をそろえ、手続きの準備をする。 ※手続きや書類にミスのないように注意する。 ※受験のためのコミュニケーション力やマナーを身につける。 ※応用問題にも取り組み、実践力をつける。 ※都立高校推薦・一次はインターネット出願、後期募集・二次は窓口での出願。調査書等出願書類は中学校から一括送付。
	11月	合唱コンクール (2) 三者面談 (4~11) 期末考査 (12~16)	○第4回進路希望調査 (最終) →私立推薦、併願優遇希望の最終確認 →都立推薦希望の最終確認 ・スピーキングテスト (22) ☆ハローワーク求人発表 ☆私立高校の願書入手 ☆都立高校出願登録始 ・スピーキングテスト予備日(12月) ○受験写真撮影 (希望者)	・はっきりと自分の口から進路目標が話せるまでになる ・自己PRカードの作成 ・願書等の書類を取り寄せ担任と連絡を密にとる ・志望校(私立)の出題傾向の研究 ・出願等の手続きを確実に	
	12月	三者面談 (1~8) 入試相談 (15~) 終業式 (25)		・受験の心構え	
1月	始業式 (8) 授業公開 (14~16)	☆就職者統一選考 ☆受験(検)校の出願登録 ★私立推薦入試 (22日頃) ★都立推薦入試 (26/27日) ※東京都以外の道府県立高校および、国立・私立帰国子女枠等は日程が異なります。			
3 学期	2月	学年末考査 (25,26)	★都立推薦発表 (2日) ★私立一般受験 (10日~) ★都立一次学力検査 (21日)	・発表後の速やかな対応 ・合格はゴールではありません→中学校卒業、進学先入学までは気をぬかない	※過去問題にも取り組み、学習の総まとめ・総仕上げをする。ミスしやすいところなどをチェックする。 ※体調管理、朝型の生活習慣を身につける。 ※出願・入試・発表の日程の確認
	3月	巣立ちの会 (2) 球技大会 (3) 卒業式 (19)	★都立一次発表 (1日) ★都立二次学力検査 (8日頃)		※進路先決定 ※新しい生活への準備

※都立の日程についてはまだ未定です。日程は1学期中(例年5月頃)に、都立の入試要項は9月後半に東京都教育委員会から発表されます。

○4月の保護者会で年間の計画、進路についての詳しい流れは進路説明会で説明・確認します。

○若干の変更があることを了承ください。

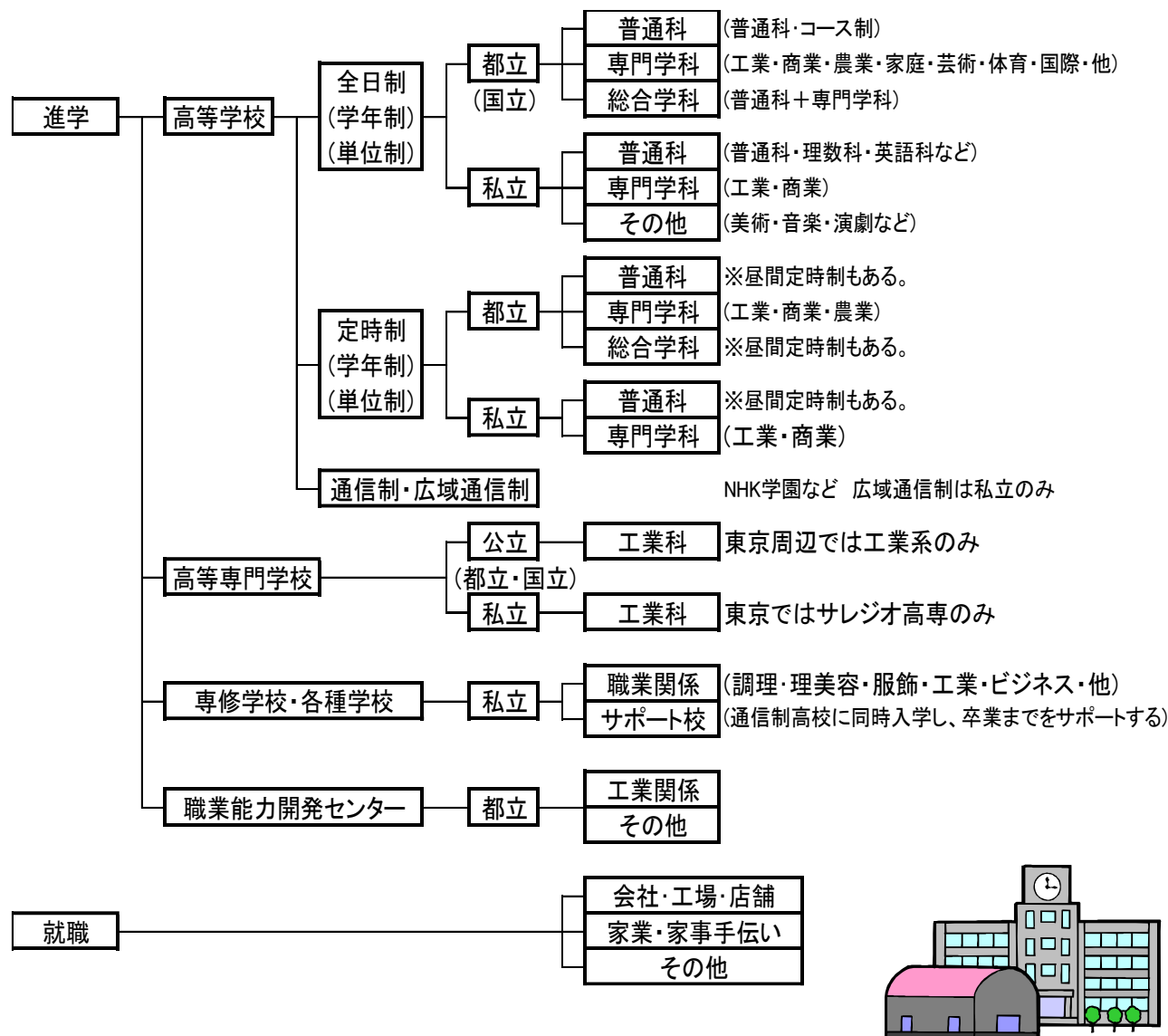
○9月の都立入試の要項発表を受け、10月の進路説明会で都立入試についてと10月中旬以降の流れを再確認します。

中学校卒業後の進路選択

中学校卒業後の進路は、大きく分けて進学と就職になります。ここでは進学を中心に説明します。就職を希望する場合は、原則として職業安定所を通して進めていきますので、担任にご相談下さい。

進学と言っても、下図のようにさまざまな選択肢があります。それぞれの特色などをよく調べ、自分に合った進路を選択することが大切です。

1. 進路系統図



2. 令和7年度卒業生進学先一覧

学校名(私立高校)	学校名(私立高校)	学校名(都立高校)	学校名(都立高校)
N高等学校	千代田高等学校	都立井草高等学校	都立立川緑高等学校
NHK学園高等学校	帝京高等学校	都立上野高等学校	都立田無高等学校
S高等学校	帝京第三高等学校	都立園芸高等学校	都立田無工科高等学校
飛鳥未来高等学校	東海大学菅生高等学校	都立荻窪高等学校	都立多摩科学技術高等学校
アメリカンスクール高等学校	東京科学大学附属科学技術高等学校	都立国立高等学校	都立千歳丘高等学校
飛鳥未来きずな高等学校	東京電機大学高等学校	都立工芸高等学校	都立調布北高等学校
磐田東高等学校	東京文理学院高等学校	都立小金井北高等学校	都立調布南高等学校
英明フロンティア高等学校	東京立正高等学校	都立国際高等学校	都立豊多摩高等学校
おおぞら高等学校	桐朋女子高等学校	都立国分寺高等学校	都立中野工科高等学校
織田学園中野高等学校	新渡戸文化高等学校	都立小平高等学校	都立永山高等学校
開成高等学校	日本体育大学桜華高等学校	都立小平南高等学校	都立西高等学校
鹿島山北高等学校	日本大学櫻丘高等学校	都立駒場高等学校	都立練馬高等学校
関東国際高等学校	日本大学第二高等学校	都立鷺宮高等学校	都立農業高等学校
関東第一高等学校	日本大学鶴ヶ丘高等学校	都立桜町高等学校	都立農芸高等学校
錦城高等学校	日本大学三島高等学校	都立石神井高等学校	都立八王子拓真高等学校
佼成学園高等学校	太成学院大学高等学校	都立新宿高等学校	都立東久留米総合高等学校
國學院高等学校	文化学園大学杉並高等学校	都立神代高等学校	都立府中高等学校
国際基督教大学高等学校	ベネッセ高等学校	都立杉並高等学校	都立府中西高等学校
駒場学園高等学校	豊南高等学校	都立杉並工科高等学校	都立府中東高等学校
実践学園高等学校	堀越高等学校	都立杉並総合高等学校	都立福生高等学校
島根県立隠岐島前高等学校	明星学園高等学校	都立世田谷泉高等学校	都立保谷高等学校
聖徳学園高等学校	武蔵野高等学校	都立世田谷総合高等学校	都立瑞穂農芸高等学校
昭和第一高等学校	武蔵野大学高等学校	都立総合芸術高等学校	都立稔ヶ丘高等学校
昭和第一学園高等学校	明治大学附属世田谷高等学校	都立第五商業高等学校	都立武蔵丘高等学校
昭和鉄道高等学校	明治大学附属中野高等学校	都立第四商業高等学校	都立武蔵野北高等学校
杉並学院高等学校	明治大学附属明治高等学校	都立立川高等学校	都立芦花高等学校
成蹊高等学校	明星学苑高等学校		
成城学園高等学校	明聖高等学校		
大成高等学校	目白研心高等学校		
大東学園高等学校	四谷学院高等学校		
拓殖大学第一高等学校	早稻田実業高等学校		
立川女子高等学校			

3. 就職について

進学する人より一足先に社会へ出て、仕事を習い技能を磨き、実力ある職業人になるよう努めましょう。仕事に生き甲斐を見出すことにより、人生に張りができ自立もできます。そんな職業を選ぶために最も大切なことは、各自の個性に合う職業を選ぶことです。

(1) 就職

◎自分の個性に合う職業を選ぶには

・自己分析

誰にも得意・不得意や、能力の違いというものはあります。自分の体力や器用さ、興味・関心や性格・能力など自分をよく知ることが大切です。

・環境や家庭の事情

それぞれの家庭の事情や環境条件を考えることも大切なことです。家庭での自分の立場をよく考え、自分を取り巻く環境を知ることが必要です。家の人たちと十分相談をしましょう。

・職業分析

将来自分が就こうと思う職業について、関心や夢を持っていることと思います。それを含めて、希望職種について調べることが大切です。ポイントは、以下の(ア)～(カ)などです。また、実際に仕事に携わっている人たちの意見を聞くことも大切です。

(ア)仕事内容	(イ)資格や条件	(ウ)仕事への適性
(エ)労働条件(賃金や勤務時間)	(オ)働きながら学ぶ方法	(カ)将来の見通し

◎就職するまでの手順

中学校を卒業して就職する方法は、大きく分けて二つあります。1つは縁故による就職、もう1つはハローワーク(職業安定所)を経由して決める方法です。

・縁故就職…家業を継ぐ場合は別として、保護者の知人などの紹介によるものです。本人はある程度緊張せずに働くことができるという利点がありますが、下に示すような条件をはっきり決めておかないと、あとで問題が起きたときに困ります。あらかじめはっきり決めておきましょう。

①仕事内容	
②就業時間、休憩時間、休日、休暇、作業着の支給状況、残業の有無	
③賃金(金額・支給方法)、諸手当、昇給の状況、交通費の支給	
④福利厚生、社会保険への加入状況(労働災害時の補償の確認)	
⑤定時制高校への通学可否	など

・ハローワークを経由する

- 10月…… ハローワークによる中卒求人一覧表作成。希望者に職業適性検査の実施。
- 12月上旬… 応募書類の作成、提出
- 1月…… 都立職業能力開発センター(令和9年4月入校生)募集期間(1/7～1/30)
- 2月…… 都立職業能力開発センター(令和9年4月入校生)選考日(2/10・12・13) ※いずれか1日
都立職業能力開発センター(令和9年4月入校生)合格発表(2月下旬)
- 3月…… 進路変更生徒への就職相談・指導

(2) 企業内学校

その企業に必要な知識や技能を学び、卒業後はその企業の中堅技術者として採用されます。科学技術学園高等学校と技能連携して、3年間で高卒資格を取得します。

日野工業高等学園… 日野自動車工業の企業内学校（昨年度は募集あり）
〒191-8660 日野市日野台3-1-1 TEL042-586-5053
最寄り駅 JR中央線日野駅からバス5分
※手当が支給されます。卒業後は日野自動車働きます
※選考は、筆記試験(国語、数学、英語)、作文、面接、健康診断

(3) 都立職業能力開発センター(旧都立技術専門校)

社会が要求する技術を身につけて、就職しようとするもののために設けられた公的機関。修業年限は1年間で、通学定期・学割が適用されます。入校は、かなり難しいと考えてください。

東京都が運営する「TOKYOはたらくネット」に、都立職業能力開発センターのサイトがあります。また、サイト内に掲載されている「入校案内 2026」には、選考や授業料、スケジュール、訓練科目等が記載されています。下のQRコードから、確認できます。



※一般の枠は、面接と、簡単な筆記試験又は学力検査を行います。筆記試験は、国語・数学とも義務教育修了程度の内容になっています。また、学力検査は、国語・数学とも高等学校卒業程度の内容で、高校1年までの範囲が出題されるので、非常に難しくなっています。

※問い合わせ:東京都産業労働局 雇用就業部 能力開発課 技能振興係 電話:03-5320-4715

4. 進学について～進路先の種類と内容～

1. 高等学校

(1) 課程

- ① 全日制：中学校と同様、午前・午後と授業が組まれます。修業年限は3年です。
- ② 定時制：夜間又は、昼間の限られた時間に授業が行われます。修業年限は原則4年。3年で卒業できる場合もあります。新たなタイプの昼夜間定時制高校では、午前・午後・夜間に授業が行われます。
- ③ 通信制：自宅等で学習しレポートなどを提出します。ラジオ・テレビ・インターネットを利用するものもあります。多くの学校ではスクーリング(登校日)も設けています。最近ではほぼ毎日登校するタイプもあり、生徒の希望で選択できる学校が多くなっています。

(2) 学年制と単位制

- ① 学年制：中学校と同じく、学年ごとに学習する教科・科目が決まっています。1年ごとに必要単位を修得すると進級できます。修業年限は、全日制は3年、定時制は4年です。
- ② 単位制：3～4年(定時制)の間に決められた単位を修得すると卒業できます。基本的に学年はなく自分で必要な教科(単位)を選んで学習します。

(3) 国立・都立・私立

- ① 国立：都内にある国立の高校は、すべて大学の付属で、本来、大学の研究校として設置されたものです。一般的に入試が非常に難しく、また大学受験に主眼を置いている所も多いです。なお、付属といっても、大学入学の特典はまったくありません。東京都には、次の6校があります。ほとんどが一般入試のみですが東京工業大学附属科学技術高校には30%の推薦枠があります。

- 筑波大学附属駒場高等学校(男子)
- 筑波大学附属高等学校(男女)
- 東京学芸大学教育学部附属高等学校(男女)
- お茶の水女子大学附属高等学校(女子)
- 東京工業大学工学部附属工業高等学校(男女)
- 東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校(男女)

- ② 都立：学区はなく、通学可能であれば、どこでも受験できます。現在、非常に多様化が進んでおり、さまざまなシステムや学科があります。特色としては経費が安く、一般的に私立より校則が穏やかで、生徒の自主性に任せるところが多いですが、学校によって生活指導の力の入れ方は異なります。
- ③ 私立：学区はなく、原則、どこでも受験できます。東京以外の学校も受験できます。国・公立より経費が高く、各学校によって教育方針や教育内容に様々な特色があります。また、一般的に都立より校則が厳しいところが多いようです。受験に当たっては、各学校の特色をよく調べる事が大切です。特色として主な項目をあげると次のようなものがあります。

- 宗教教育
- 中高一貫教育
- 大学附属
- 男女別学
- 部活動
- 特色ある行事や教育方針
- 充実した設備

※大学付属:都内には私立大学も多く、たくさんの付属校があります。付属校から大学への進学の見方は学校によって様々です。例えば、次のようなタイプの学校があります。

- 原則として、全員が大学に進学できるタイプ
- 在学中の成績がある基準以上の者だけが推薦されるタイプ
- 付属校専用の試験によって、一定の成績を上げた者が、入学を許可されるタイプ
- 一般の受験生と同じように受験するが、いくらか優遇されるタイプ
- 大学の学部の選択は、成績上位者は第1希望で入学できるが、あとは第2・第3希望になることが多いタイプ

※大学付属校を選ぶ時には、その大学に進学することを考えて、自分の学びたい学部や学科があるかなど、大学の特色も調べておく必要があります。最近は他大学への進学にも力を入れている学校が多く見られます。

④ 経費について

- 都立高校入学時・入学後に必要な経費について、令和6年度入学生の例を紹介します。
- 都庁総合ホームページに、都内所在の私立高等学校(全日制)の「令和8年度の初年度(入学年度)納付金」(以下「初年度納付金」という。)の状況についてとりまとめました「令和8年度 東京都内私立高等学校(全日制)の学費の状況について」が掲載されています。

令和6年度入学生 都立高校
入学時・入学後に必要な経費



令和8年度 東京都内私立高等学校
(全日制)の学費の状況について



- 授業料の負担軽減 ※巻末資料2「学費負担軽減制度」をご参照ください(p.30)
- 都立高校・都内私立高校の初年度経費 ※授業料の一部は就学支援金として国から支給(所得制限あり)

(4) 学科

都立高校には、普通科(コース制)、専門学科(農業・工業・商業など)、総合学科など多くの学科が設置されています。普通科の中には進学指導重点校やチャレンジスクール、エンカレッジスクールといった特色のある教育活動を行う学校もあります。それぞれの特色は、「東京都立高等学校に入学を希望する皆さんへ」に詳しく紹介されています。

私立高校にも普通科の他に、工業科、商業科、英語科、理数科などの学科や、特進コース、福祉コースなどのコースを設けている学校もあります。

2. 高等専門学校(高専)

将来、産業界で活躍する技術者を育成するためにつくられた5年制(商船学科は5年半)の学校です。高専は高校と短大をあわせたような特性をもち、5年間一貫で、実験・実習を重視した専門教育が実施される教育機関です。高等学校の専門学科よりも高度な専門的知識と技術を学びます。1年生から専門科目を学び、学年が上がるに従って専門科目の時間が増えていきます。そして、5年間で大学卒と同程度以上の専門知識と実践的なスキルを身につけられるカリキュラムが特徴です。

卒業後は、短大卒業程度として中堅技術者として企業に就職する人が多くいます。就職希望者の就職率はほぼ100%、卒業年度の10月時点での内定率が90%以上(国立高専の場合)と、高校などの他の学校種に比べても高い実績となっています。高専卒業生は、大学卒業生の技術者と並んで、研究開発・生産管理・生産現場等の各部門で即戦力として活躍しており、高く評価されています。

進学する場合、高専卒業後さらに2年間の高度な技術教育を受けられる「専攻科」に進むか、大学の3年次に編入することが可能です。高専卒業後専攻科へ進学する人は15%、大学に編入学する人は25%(2024年度国立高専卒業生)となっており、4割が進学を選んでいます。多くの国公立大学が高専卒業生の編入学を受け入れており、専攻科だけでなく幅広い選択肢があります。

専門的な学習をすると同時に、修業年限が5年と長いので、興味・関心や適性を考えて選択することが必要です。また、都立の高等専門学校は、都立高校より先に入試があるので、両方に出願できますが、都立の高等専門学校に合格した場合、都立高校は受検できません。

現在高専は全国に58校(国立51校、公立3校、私立4校)あり、ほとんどの都道府県に高専があります。寮も用意されており、国立高専では志願先高専以外の場所(他の高専や、他の高専が設置する学外会場)を設定して受験できる、「最寄り地等受験制度」もあります。東京にある高専は、以下の3校になります。詳しくは、高校入試情報サイトの各校ページや、各高専のWebサイトで確認できます。※6/28、東京で国公立高専合同説明会(KOSEN FES)2026が開催されます(事前予約が必要です)。

- ◆ 東京都公立大学法人 東京都立産業技術高等専門学校
 - ・品川キャンパス…機械システム工学コース・生産システム工学コース・電気電子工学コース・電子情報工学コース
 - ・荒川キャンパス…情報通信工学コース・ロボット工学コース・航空宇宙工学コース・医療福祉工学コース
- ◆ 国立東京工業高等専門学校(八王子市)
 - ・機械工学科・電気工学科・電子工学科・情報工学科・物質工学科など
- ◆ サレジオ高等専門学校(私立・町田市)
 - ・デザイン学科・電気工学科・機械電子工学科・情報工学科など

3. 高等専修学校・各種学校・サポート校・広域通信制高等学校

(1) 高等専修学校

- 高等専修学校(専修学校高等課程)は、中学校卒業者を対象に実務面に重点をおいた教育を行っています。一定の基準にそって教育課程を編成し、認可を受けたもので、多くは社会に出て仕事をするために必要な技術や知識の習得を目標とした学校です。すべて私立で、1年制、2年制、3年制と修業年限が違います。卒業時には職業資格や各種免許・国家試験受験資格等が取得できます。中学卒業で入学できるのは専修学校高等課程です。3年間の課程を終えると、高校卒業資格は得られませんが、大学受験資格は得ることができます。最近では修了年限が3年以上の専修学校の中に、通信制高等学校と技術提携し、同時に入学することで、卒業と同時に高等学校卒業資格が得られる学校(技能連携校)も増えています。技能連携が必修の場合、専修学校の授業料とは別に連携先の通信制高等学校の授業料や検定料がかかります。募集は11月頃から2月頃にかけて何回かに分けて行うところが多く、選考は、面接と書類審査による学校が主ですが、学科試験を行なう学校も

あります。一部の学校では、高等学校と併願する者のことを考えて、公立高校・私立高校の合格発表まで入学
 手続を待つところもあります。

【推薦入試】11月初旬より出願。本人のその学校に対する意欲が問われ、その職業に対する意欲・情熱、体
 験授業への参加の有無などが評価されます。入学金等の延納はなく、合格したら必ず進学すること
 が条件となります。

【一般入試】11月初旬より出願。入学試験は、面接・作文の他に学力試験を実施する学校もあります。併願
 優遇の制度がある学校もありますが、延納の手続きが可能かどうかは説明会などで確認する必要
 があります。

＜大学受験資格や高卒資格が与えられる高等専修学校の例＞

学校名	科	地区	大学入学資格付与指定校/提携
野田鎌田学園杉並高等専修学校	調理高等科・情報高等科	杉並区	指定校 / あずさ第一高校
武蔵野東高等専修学校	総合キャリア学科	武蔵野市	指定校
東放学園高等専修学校	芸術科	新宿区	指定校
日本芸術高等学園	演劇・音楽科	国分寺市	指定校
国際製菓専門学校高等課程	製菓衛生師科	立川市	指定校 / 東海大望星高校
東京多摩調理製菓専門学校	調理師科	多摩市	指定校 / 向陽台高校
大竹高等専修学校	美容師科・調理師科	八王子市	指定校

(2) 各種学校

各種学校は、一般に学歴や年齢などに関係なく入学できます。各種学校には様々なものがあり、いずれも専
 門の知識や技術の習得を目的としています。入学にあたっては、内容等をしっかり調べる必要があります。

(3) サポート校

サポート校は、通信制高等学校卒業や高等学校卒業程度認定試験(旧・大学入学試験検定)合格のための
学習をサポートする施設です。通信制の高等学校に同時に入学し、普通の高等学校と同様の学習や生活をし
 ながら、高校の卒業資格を取得させる学校もあります。

(4) 広域通信制高等学校

広域通信制高等学校は、通信制課程の内容に準じて運営をしている高等学校で、学校がある都道府県に
 加えて、さらに二つ以上、合計三つ以上の都道府県から生徒を受け入れている通信制高校です。レポート提
 出と面接指導(スクーリング)を組み合わせる点は、他の通信制高校と同じで、卒業すれば全日制と同じ
 高等学校卒業資格になります。広い地域から生徒が集まるため、各地に学習センターやサテライト校を設け、
 通いやすくしている学校も多く見られます。通学日数が選択できる学校、スクーリングのために登校する必要
 がある学校など、様々な教育活動が展開されています。立地なども含め説明会などで確認が必要です。併願
 優遇制度、また就学支援金制度の対象になる学校もあります。進学を希望する場合は、学校見学などによって
 その学校の特徴や教育のシステムを理解することが大切です。

都立の通信制高校は原則として都内在住者が対象ですが、広域通信制高校は
 都外も含めたより広い地域の生徒を対象としている点が大きな違いです。文部科
 学省が運営するサイトに「通信制高等学校情報発信サイト」があります。右のQRコ
 ードから通信制高等学校情報発信サイトに移動できますので、参考にしてください。



入試日程

1. 都立高校入試日程

令和9年度東京都立高等学校入学者選抜の日程を、以下のとおりお知らせします。なお、令和9年度入学者選抜に係る詳細は、「令和9年度東京都立高等学校入学者選抜実施要綱・同細目」により、本年9月に公表する予定です。右のQRコードから、東京都教育委員会「令和9年度東京都立高等学校入学者選抜の日程について」のサイトに移動できます。



1 推薦に基づく選抜

	令和9年度入学者選抜
出願受付期間	【志願者情報入力期間】 令和8年12月18日（金）～ 令和9年1月18日（月）午後5時 【書類提出期間】 令和9年1月8日（金）～18日（月）
実施日	令和9年1月26日（火）・27日（水）
合格発表日	令和9年2月2日（火）

（注1）インターネットを活用した出願により行う。以下、第一次募集及び分割前期募集、海外帰国生徒対象の選抜、都立国際高校における在京外国人生徒等対象の選抜及び通信制課程における選抜（前期選抜）についても同様とする。

（注2）都立国際高校における国際バカロレアコースの入学者選抜についても上記日程で実施する。また、インターネットを活用した出願により行う。

2 学力検査に基づく選抜

（1）第一次募集及び分割前期募集（注3）

	令和9年度入学者選抜
出願受付期間	【志願者情報入力期間】 令和8年12月18日（金）～ 令和9年2月4日（木）午後5時 【書類提出期間】 令和9年1月29日（金）～2月4日（木）
実施日	令和9年2月21日（日）
合格発表日	令和9年3月1日（月）

（2）分割後期募集及び全日制第二次募集（注3、4、5）

	令和9年度入学者選抜
出願受付日	令和9年3月4日（木）
実施日	令和9年3月9日（火）
合格発表日	令和9年3月12日（金）

（3）定時制第二次募集（注4）

	令和9年度入学者選抜
出願受付日	令和9年3月25日（木）
実施日	令和9年3月26日（金）
合格発表日	令和9年3月29日（月）

（注3）分割募集：昼夜間定時制の学校において、定員を前期と後期に分割し、2回に分けて行う募集

（注4）第二次募集：第一次募集で欠員のある学校が行う欠員補充の募集

（注5）インフルエンザ等学校感染症罹患患者等に対する追検査は、（2）分割後期募集及び全日制第二次募集の日程で実施する。

3 海外帰国生徒対象の選抜

令和9年度入学者選抜	
出願受付期間	【志願者情報入力期間】 令和8年12月18日（金）～ 令和9年2月4日（木）午後5時 【書類提出期間】 令和9年1月29日（金）～2月4日（木）
実施日	令和9年2月15日（月）
合格発表日	令和9年2月17日（水）

4 在京外国人生徒等対象の選抜

(1) 国際高校以外の実施校 ※入学願書は窓口への持参により受付

令和9年度入学者選抜	
出願受付日	令和9年1月20日（水）・21日（木）
実施日	令和9年1月26日（火）
合格発表日	令和9年2月2日（火）

(2) 国際高校

令和9年度入学者選抜	
出願受付期間	【志願者情報入力期間】 令和8年12月18日（金）～ 令和9年2月4日（木）午後5時 【書類提出期間】 令和9年1月29日（金）～2月4日（木）
実施日	令和9年2月15日（月）
合格発表日	令和9年2月17日（水）

5 通信制課程における選抜（前期選抜）

令和9年度入学者選抜	
出願受付期間	【志願者情報入力期間】 令和8年12月18日（金）～ 令和9年2月4日（木）午後5時 【書類提出期間】 令和9年1月29日（金）～2月4日（木）
実施日	令和9年2月22日（月）
合格発表日	令和9年3月1日（月）

(注6) 通信制課程における後期選抜の出願受付日等については、別途定める。また、前期選抜は第1学年相当の募集のみで実施する。

【参考】 東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題出題の基本方針

- 1 中学校の教育課程に基づく学習の成果としての学力を検査することを基本とし、出題の範囲は、中学校学習指導要領に示されている内容によるものとする。
- 2 出題の内容は、各教科とも、中学校学習指導要領に示されている教科の目標及び内容に照らして基本的な事項を選ぶとともに、一部の領域に偏ることのないようにする。
- 3 出題に当たっては、基礎的・基本的な知識及び技能の定着や、思考力、判断力、表現力などをみるとともに、体験的な学習や問題解決的な学習などの成果もみることができるようになる。

2. 東京都立産業技術高等専門学校の入試日程

東京都立産業技術高等専門学校の令和9年度 入学者選抜について

東京都立産業技術高等専門学校では、令和9年度入学者選抜の日程を、以下のとおり決定しました。なお、入学者選抜の詳細は、本年9月に策定予定の「令和9年度東京都立産業技術高等専門学校入学者選抜実施要綱」においてお知らせします。

1 推薦に基づく選抜

	令和9年度入学者選抜
出願受付期間	令和9年1月8日（金曜日） から1月18日（月曜日）まで
検査実施日	令和9年1月27日（水曜日）
合格発表日	令和9年2月2日（火曜日）

2 学力検査に基づく選抜

第一次募集	令和9年度入学者選抜
出願受付期間	令和9年1月29日（金曜日） から2月4日（木曜日）まで
検査実施日	令和9年2月15日（月曜日）
合格発表日	令和9年2月19日（金曜日）

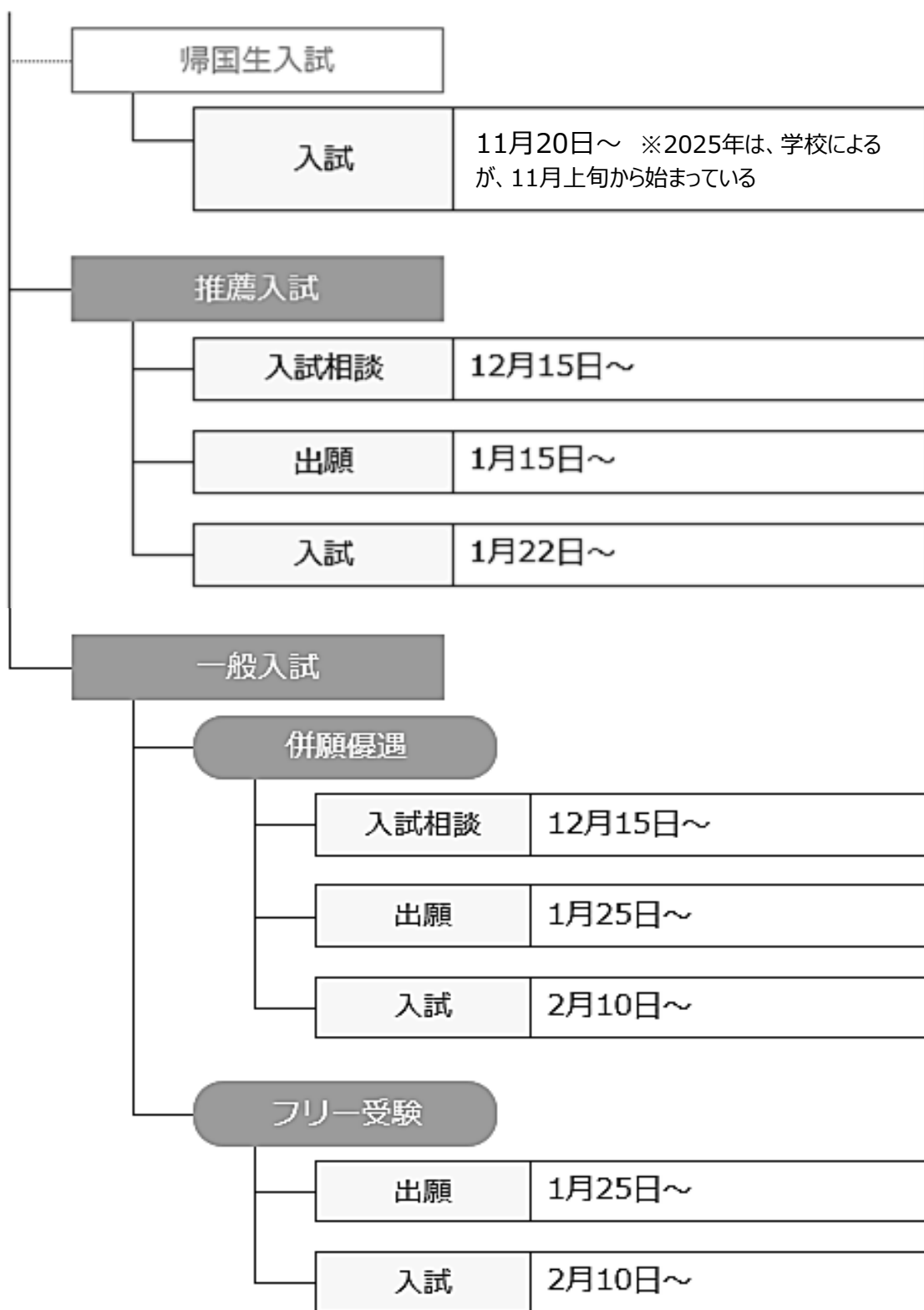
■検査実施日・合格発表日は都立高等学校と別日程です。

■第一次募集で欠員が生じた場合は、第二次募集を実施します。

※インターネットを活用した出願に係る出願受付期間等については、別途定めます。

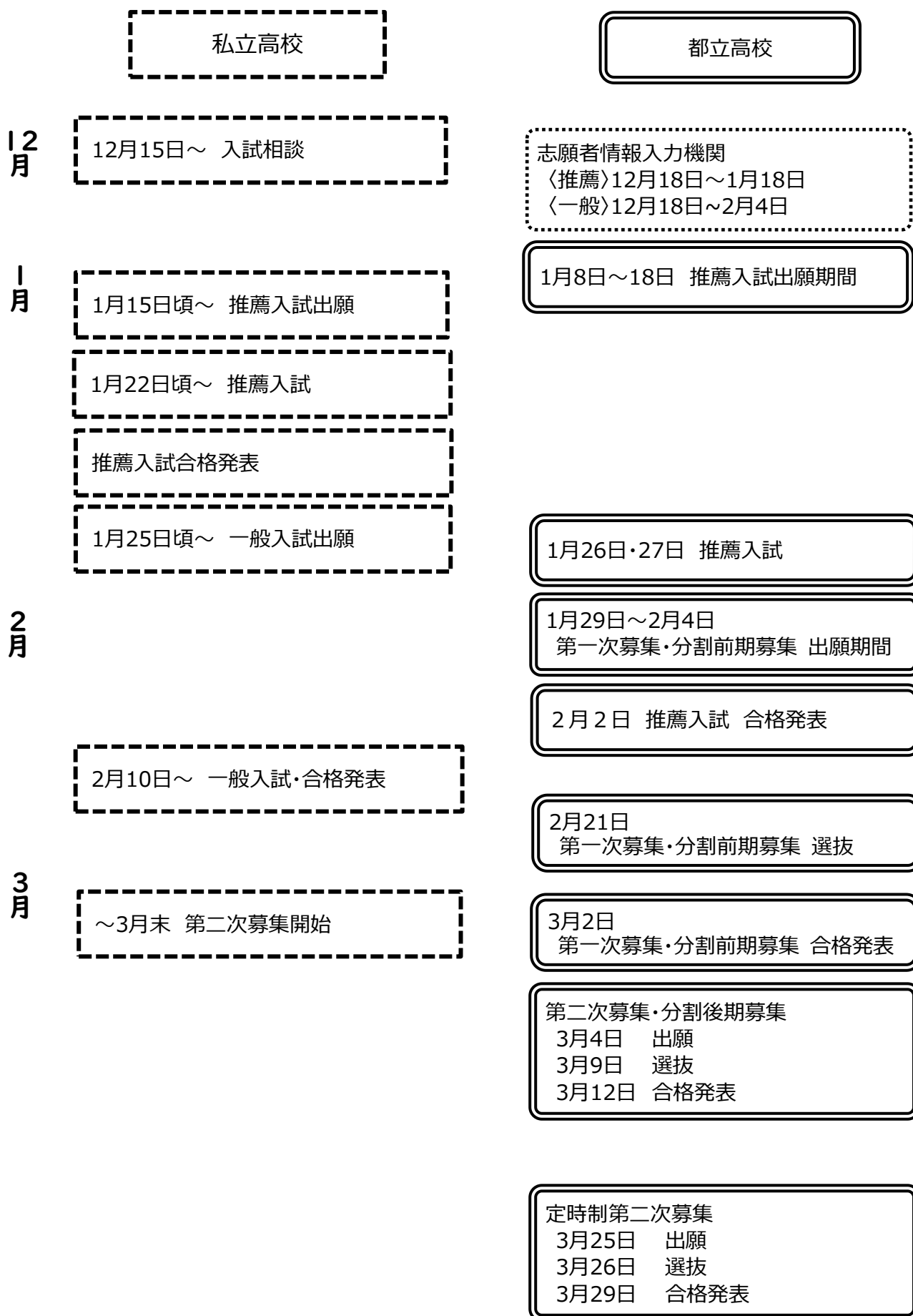
東京都立産業技術高等専門学校は、技術者育成を目的とした5年制の高等教育機関です。都立工業高等専門学校と都立航空工業高等専門学校が統合・再編され平成18年に開校しました。社会の変化に対応できる実践的なスキルと専門知識を身につけるため、工学分野を中心に幅広いカリキュラムを提供しています。産業界との連携を活かした学びの環境の中で、次世代を担う技術者としての基礎を築きます。

3. 私立高校入試日程



4. 私立高校と都立高校の入試日程の比較

*双方の日程の流れを並行して捉えましょう。



高等学校の入試制度について

1. 入試の基本的な流れ



2. 都立高校の入試制度

東京都の都立高校入試には、「推薦に基づく選抜」と「学力検査に基づく選抜」があります。2026年度入試より、全日制の分割募集は廃止し、第一次募集での選抜に変更されました。昼夜間定時制は、分割募集を継続します。通学区はなく都内のどの高校でも受検することが可能で、全日制は「推薦に基づく選抜」と「学力検査に基づく選抜」の第一次募集の2回の受検機会があります。基本的な流れは、以下のとおりです。

(1) 推薦に基づく選抜(以下、「推薦入試」)

- ① 一般推薦と文化・スポーツ等特別推薦、理数特別推薦があります。
- ② 第1志望であることが条件です。合格した場合、必ず進学する学校となります。
- ③ 推薦枠上限は普通科20%、専門学科30%。ただし、学校によって異なります。
- ④ 選考:以下の各得点を総合して合格者を決めます。

スポーツ推薦や文化活動の推薦は、高い競技レベルもしくは技能レベルが要求されるとともに、入学後、そのスポーツや文化活動を継続することが条件になります。

推薦は、三鷹一中の校長が推薦に値する生徒として保証する制度です。学力だけでなく、行動や服装・生活面でも、しっかりした生活を送ることが大切です。学年当初の進路ガイダンスや保護者会でお示しした一中の「推薦受験(検)資格の認定について」(P.31)を読み、確認してください。

- ▶ 検査は、集団討論・個人面接・小論文または作文・実技検査、その他学校が設定する検査を組み合わせ実施します。集団討論と個人面接は、原則として全ての学校で実施します。また、小論文又は作文、実技検査、その他の学校が設定する検査は、それらの中から各学校が1つ以上選んで実施します。
- ▶ 集団討論と個人面接、小論文または作文、実技検査、その他学校が設定する検査の内容については各学校で定めます。
- ▶ 選考は、調査書点のほか、集団討論及び個人面接、小論文または作文、実技検査、その他学校が設定する検査の各点数を総合した成績で行います。
- ▶ 出願には、出身中学校よりの推薦書・調査書などが必要です。
- ▶ 推薦基準・推薦枠・推薦試験の内容は各高等学校に任されています。
- ▶ 調査書における必修教科の観点別学習状況の評価(全27観点)又は評定(9教科)のどちらか一つを調査書点として点数化します。
- ▶ 自己PRカードは点数化しませんが、面接資料として入試の合格判定資料の一部として活用されます。志望校に最も伝えたいことを記入し提出します。

〈一般推薦〉 ①個人面接(集団討論を実施する学校は集団討論を含む) ②小論文または作文等

〈文化・スポーツ等特別推薦〉 ①面接(個人または集団) ②実技 ③高校設定の検査(小論文または作文等)

※①②は必須、③は必要に応じて実施することができます。

〈理数等特別推薦〉 ①個人面接 ②小論文 ③科学分野等の研究に関するレポートに関する口頭試問

※詳しくは、東京都教育委員会ホームページに掲載される「入学者選抜実施方法一覧」で確認できます(9月中旬以降)。

※コロナ禍の時期に感染拡大予防の観点から一時中止されていた集団討論は、令和6年度から必要性があると判断した学校で実施が再開されています。

〈令和7年度実施校〉日比谷、竹早、深沢、鷺宮、西、北園、篠崎、調布南、東大和南、永山、東久留米総合の11校

〈令和8年度実施校〉日比谷・竹早・鷺宮・西・北園・調布南の6校

※令和8年度入試でも、文化・スポーツ等特別推薦の基準に、大会の実績や、資格・検定試験等の成績に関わる内容を含めず、「**実績等を証明する書類等の写し**」の提出も求めない対応が継続しています。

(2) 学力検査に基づく選抜(以降、第一次募集・第二次募集・分割募集)

- ① 都内全域通学可能であれば、受検することができます。
- ② 学力検査に基づく入試では、第一次募集の結果、入学手続き人員が募集人員に達しない学校が第二次募集を行います。なお、定時制課程の高校(昼夜間定時制高校)においては、募集人員を分割し、第一次募集期間における募集(分割前期募集)に加えて、第二次募集期間における募集として、分割募集(分割後期募集)を実施します。
- ③ 通信制課程の入学者選抜は、令和8年度入学者選抜においては、前期選抜と後期選抜の二回に分けて実施されています。前期選抜は、第一次募集と同じ時期に、後期選抜はこれまでと同様に4月上旬の実施となっています。
- ④ 選考は、学力検査の得点および調査書点の他、面接、小論文または作文、実技検査を実施する学校では、これらの点数を総合した成績で行います。
 - ▶ 1次募集は5教科(国・数・英・社・理)、2次募集は3教科(国・数・英)です。
 - ▶ 体育科・芸術科は、国数英の3教科と実技検査を実施します。
 - ▶ 全日制高校のうち以下の10校では、学力検査問題を自校で作成します。これらの学校については、自校で作成した問題(国語、数学、英語)と都立高校共通問題(社会、理科)で学力検査を実施します。

〈学力検査の自校作成を実施する学校〉(令和8年度入試)

日比谷高校	戸山高校	青山高校	西高校	八王子東高校	立川高校
国立高校	新宿高校	墨田川高校	国分寺高校		

※ 国際高校は英語のみ自校作成です。また、一部の定時制高校でも自校作成を実施します。

④ 総合得点の算出方法

全日制課程(学力検査と調査書の比重は原則7:3)の場合の総合成績			
総合得点(1020点満点)			
1000点		20点	
学力検査点	調査書点	ESAT-J結果	面接・実技点
自分のとった入試の得点を700点満点に換算。	自分の内申を65点満点に換算し、それをさらに300点満点に換算する。	英語スピーキングテスト[EAST-J]の結果(A~Fの6段階評価)を20点満点で点数化。 A=20点 B=16点 C=12点 D= 8点 E= 4点 F= 0点	実施する学校のみ。 面接点は各学校により異なる。

- ▶ 学力検査点と調査書点に英語スピーキングテスト[EAST-J]の結果を加えて、1020点 満点としたものを総合得点といいます。この総合得点に、面接・実技点を加えたものを総合成績といいます。

英語スピーキングテスト(ESAT-J)とは、中学校の授業で学んだ英語で「どのくらい話せるようになったか」を測るためのスピーキングテストのことで、タブレット端末で解答音声を録音する方式で実施されます。ESAT-Jの結果は、A～Fで段階評価されます。AからFまでの6段階を20点満点とし、A:20点、B:16点、C:12点、D:8点、E:4点、F:0点として点数化し、入試の総合得点に加算します。

- ▶ 調査書点は、学力検査を5教科実施した場合に、学力検査を実施しない4教科について評定を2倍して点数化します。学力検査を3教科実施した場合は、学力検査を実施しない6教科について評定は2倍されます。
- ▶ 高校によって、面接・小論文または作文・実技検査を実施します。選考は上記検査・調査書の点数を総合した成績、及びその他必要な資料により行います。

昨年 令和8年度入試		
項目	全日制	定時制
学力検査	一次→5教科 二次→3教科 ●面接・小論文(作文)・実技検査は学校により実施	一次→3教科～5教科で実施 二次→3教科 ●面接は全校で実施。小論文(作文)・実技検査は学校により実施
学力検査と調査書点の比率 (学力検査の得点:調査書点)	一次・前期→「7:3」「10:0」 二次・後期→「6:4」「10:0」	一次・前期→「7:3」又は「6:4」 二次・後期→「6:4」又は「5:5」
換算内申	<p>*5教科受検の場合 学力検査を実施しない実技4教科の評定を2倍する。 →換算内申の満点は $(5 \times \underline{5科}) + (5 \times \underline{4科}) \times 2 = 65$ <u>国,数,英,社,理</u> <u>音,美,体,技家</u> 比率が「7:3」の場合、この65点満点を300点に換算します。</p>	

- ▶ 特定の教科の得点に決められた倍率をかけて、配点を多くする「傾斜配点」を実施する学校もあります。
- ▶ 深沢高校は、受検者ごとに一次募集では「7:3」と「10:0」、二次募集では「6:4」と「10:0」それぞれの比率に基づき学力検査の得点と調査書の合計を算出したうえで、いずれか高い方を選考に用います。
- ▶ エンカレッジスクール(例 東村山高校、秋留台高校、中野工科高校など)は学力検査を実施しません。チャレンジスクール(例 世田谷泉、八王子拓真チャレンジ枠など)は学力検査と調査書を用いない選抜方式で行います。
- ▶ 自己PRカードは、面接を行う学校では出願時に提出し、面接資料となります。
- ▶ 解答はマークシート方式…共通問題を使用して学力検査を実施する全ての学校で「マークシート方式」による入試を実施しています。記号による解答部分のみマークシート方式で、国語や英語の作文、社会や理科での説明や作図などの出題は、記述方式です。

⑤ 志願の変更: 全日制は出願後、1回に限り志願の変更をすることができます。変更は、異なる学科・コース間でも可能ですが、一部制限があります。また、取り下げた学校に再提出することはできません。

(4)海外帰国生徒対象入試

海外帰国生徒対象の選抜を実施する都立高校は、三田高校、竹早高校、日野台高校、国際高校の4校です。応募の資格は在住期間によって区分されます。

- ①2年以上3年未満 … 入学日までに、帰国後1年以内
- ②3年以上4年未満 … 入学日までに、帰国後2年以内
- ③4年以上 …………… 入学日までに、帰国後3年以内

(5)在京外国人生徒等対象入試

在京外国人生徒等対象の選抜を実施する都立高校は、竹台高校、田柄高校、南葛飾高校、府中西高校、飛鳥高校、六郷工科高校、杉並総合高校、一橋高校、浅草高校、荻窪高校、砂川高校です。応募の資格は、入国後の在日期間が入学日までに3年以内等、いくつかの条件に区分されます。

(6)ここ数年の東京都立高等学校入学者選抜等におけるおもな変更点

令和9年度の都立入試の詳細は未定です。例年9月中旬以降に発表されます。

《参考》令和7年度入学者選抜における主な変更点

推薦による選抜の集団討論	集団討論は必要と判断した学校で実施。(P.17 で記載)
文化・スポーツ等特別推薦の基準	大会の実績や、資格・検定試験等の成績に関わる内容を含めず、「実績等を証明する書類等の写し」の提出も求めない対応の継続。(P.17 で記載)
追々検査は実施しない(令和6年度からの継続)	第一次募集の検査日当日に新型コロナウイルス感染症を含むインフルエンザ等学校感染症に罹患した者、中学校長が出席停止の措置を行った者及び月経随伴症状の生徒や痴漢被害者、やむを得ない入院等で受検できなかった者等を対象とした「追試験」については、令和7年度入学者選抜も継続して実施する。なお、「追々検査」については、令和6年度入学者選抜と同様に、令和7年度入学者選抜においても実施しない。
<u>在京外国人生徒等対象の選抜について</u>	在京外国人生徒対象の選抜は、令和6年度入学者選抜までは国際高校、竹台高校、田柄高校、南葛飾高校、府中西高校、飛鳥高校、六郷工科高校及び杉並総合高校の8校で実施していたが、令和7年度入学者選抜においてはこの8校に加え、一橋高校、浅草高校、荻窪高校及び砂川高校の4校で新たに実施する。 応募資格について、国籍要件を撤廃し、日本語指導が必要な日本国籍の者の応募資格を認める。また、入国後3年以内としている在日期間について、入国後の在日期間を延長し、3年3か月までを3年以内とみなす。
<u>受検上の配慮について</u> 『特別措置』から『受検上の配慮』へ	●障害や学力検査等の検査日当日の事故、病気等により、検査当日に検査実施上の配慮を行うことをこれまで『特別措置』と呼称していたが、この名称を『受検上の配慮』と改める。
<u>インフルエンザ等学校感染患者等に対する追試験について</u>	●月経随伴症状、痴漢被害等により第一次募集を受検できなかった場合に、追検査の対象となることが実施要項上に明記されるようになりました。
<u>新設校</u>	●立川緑高校(チャレンジスクール)令和7年4月 多摩地区に初のチャレンジスクール新規開校

《参考》令和8年度入学者選抜における主な変更点

<u>全日制課程の分割募集廃止</u>	○分割募集は、入学者を前期・後期に分けて、2回募集する制度で一部の都立高校で実施されてきました。3月(後期)になっても必ず募集があるという点で受検者にとってはメリットがありましたが、近年、第二次募集がその役割を果たしていることから、令和8年度から全日制課程の分割募集は廃止することになりました。 なお、定時制課程の高校(昼夜間定時制高校)では、多様な生徒の受検機会を確保する観点から、これまでどおり継続して分割募集を実施します。なお、前期選抜及び後期選抜の募集人員については別途定める予定である。
----------------------------	---

<p>通信制課程における前期日程・後期日程の実施</p>	<p>○通信制課程の入学選抜は、令和7年度入学選抜までは4月上旬に行ってきましたが、通信制課程を第一志望とする生徒が増加傾向であるため、令和8年度入学選抜では前期選抜(2月)と後期選抜(4月)の二回に分けて実施します。前期選抜は、第一次募集と同じ時期に、後期選抜はこれまでと同様に4月上旬に実施します。</p>
<p>入学選抜における調査書の扱い(都立深沢高校)</p>	<p>○困難を抱える生徒の多様なニーズにこたえることができるよう、学力検査の得点と調査書点の比率について7:3と10:0の両方の方法で算出しどちらか高い方を本人の得点として選抜する新たな選抜方法を、深沢高等学校で実施します。</p>
<p>定時制課程における選抜に係る志願変更</p>	<p>○定時制課程では、これまでは第二次募集にのみ志願変更(一度提出した願書を別の志望校に出し直すこと)の機会を設けてきましたが、志願変更の実績がほとんどないことから、志願変更は行わないこととなりました。</p>
<p>自己PRカードの取り扱い</p>	<p>○自己PRカードは、面接を実施する学校を受検する場合は出願時に、面接を実施しない学校を受検する場合は合格後に提出することになっていましたが、令和8年度入学選抜からは、面接を実施する学校(推薦を含む)を受検する場合のみ提出することになりました。</p>
<p>令和8年度募集停止予定校</p>	<p>都立高校におけるチャレンジサポートプランに基づき、次の高等学校の課程について令和8年度の募集を停止する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【定時制/普通科】小山台高等学校 ・【定時制/普通科】桜町高等学校 ・【定時制/普通科】大山高等学校 ・【定時制/普通科】葛飾商業高等学校 ・【定時制/工業科】蔵前工科高等学校 ・【定時制/工業科】北豊島工科高等学校 ・【定時制/商業科】葛飾商業高等学校

都立高校の情報を、以下のサイトで調べることができます。

都立高校検索「#だから都立高校」

東京都教育委員会が運営している都立高校検索サイトです。各学校の「学校説明会」や「授業公開」や「イベント」等の情報も掲載されています。下のQRコードを読み取ると、アクセスできます。

都立学校魅力PR動画「まなびゅ〜」

東京都教育委員会のHPに掲載されている各高校が作成している公式動画のサイトです。高校や在校生のようすを見ることができます。右のQRコードを読み取ると、アクセスできます。

#だから都立高校



まなびゅ〜



2. 私立高校

(1) 私立高校の入試制度

入試制度や形態が各学校によって異なります。大きく分けると、「単願推薦」と「一般併願優遇制度」、「一般入試(フリー受験)」があります。

推薦入試(1月)	一般入試(2月)		
	併願優遇(第2志望)	第1志望優遇	フリー受験
推薦基準をクリアしている。事前の入試相談が必要。	併願優遇の基準をクリアしている。事前の入試相談が必要。	第1志望基準をクリアしている。事前の入試相談が必要。	基準はない。

(2) 推薦入試

① 出願資格(条件)

第1志望であること、合格したら必ず入学することが条件です。1月中旬に合格が決りますが合格後の辞退はできないので、よく考えて希望してください。

② 推薦基準

多くの学校が、成績等の推薦の基準を設けています。推薦の基準は要項等に明記されることになっています。以下は、基準の例です。

- ア. 推薦にふさわしい人物であり、校長の推薦を受けられること。
- イ. 成績の基準は、調査書の評定の得点です。(私立の場合は評定を単純に合計します)9科計、5科計、3科計など様々です。また、特定の教科が一定の成績以上であること。また、評価に1や2がないことなども条件となる場合があります。
- ウ. 大部分の学校が出欠や遅刻回数の条件を定めています(例 3年間で10日以内や、3年時の出欠席が評価(加点)されるなど)。ただ、正当な理由のある場合(入院等)は考慮されます。
- エ. 生徒会活動や部活動、一定の資格(英検、漢検、数検など)などが、評価される場合もあります。
- オ. スポーツ推薦の場合、運動技能やそのスポーツでの実績(大会等)が重要な条件となります。実績は通常、都大会出場以上の実績・技能が要求される場合が多いです。一部の学校では、部活動の体験や見学の誘いが来始めているので、関心のある方は該当する高校の情報を集めてください。通常は、高校入学後の3年間そのスポーツを続けることが条件です。

※推薦は、三鷹一中の校長が推薦に値する生徒として保証する制度です。学力だけでなく、行動面でも、しっかりした生活を送ることが大切です。学年当初の進路ガイダンスや保護者会で配布した一中の「推薦受験(検)資格の認定について」(p.31)を読み、確認してください。

③ 入試日程

- 入試日…1月中旬
- 入学手続き…合格発表後2～3日以内 ※期間内に諸費用を納めなければなりません。

④ 合否の判定

中学校からの調査書、推薦書と面接、作文等の結果を総合的に判断して決定します。

⑤ 指定校推薦について

昨年度は本校で指定校推薦枠を1校いただいており、他にも地域優遇等を設けている学校があります。

- 明治大学附属明治高等学校

(3) 一般入試

① 受験資格

- ▶ 成績基準などはなく、原則として誰でも受験できます。

② 入試日程(例年)

- ▶ 高校によって異なりますが、都内の私立高校では、願書受付が1月25日頃から、入試日は2月10日～12日頃になることが一般的です。
- ▶ ※複数校を受験する場合には、日程をよく調べてください。

③ 入試科目

- ▶ 国・数・英の3教科の学校が多いですが、5教科や2教科、指定された教科から選択する学校もあります。
- ▶ 大部分の学校が面接を行いません。面接は本人のみやグループ面接の場合がほとんどですが、保護者同伴で面接を行なう学校もあります。

④ 合否の判定

- ▶ 調査書・学力テスト・面接の結果を総合的に判断して行なわれますが、多くの学校が、入学試験の結果を重視しています。

⑤ 合格発表と手続き

- ▶ 合格発表は入試日から1～3日後位に行なわれることが一般的です。
- ▶ 手続きは合格発表後2～3日中の場合が多いですが、都立高校を第1志望としている受験者のために、都立高校の発表まで手続きを待つ学校(延納制度)もあります。各学校によって対応が異なるので注意が必要です。入試要項等で確認してください。

(4) 一般入試における **第1志望優遇** ・ **併願優遇**

- ▶ 第1志望優遇は、合格したら必ず入学することが条件です。
- ▶ 併願優遇は、第1志望が不合格の場合、原則として入学することが条件です。都立高校との併願を認める高校や、他の私立高校との併願も認める高校もありますので、併願優遇制度を利用する場合は、入試要項で確認したり、学校説明会に参加する等、事前によく調べるのが大切です。
- ▶ 推薦入試と同様に、成績(内申点)等の基準があります。併願優遇のほうが一般的に基準は高くなっています。この制度を利用して私立高校を受ける生徒が多くいます。
- ▶ 一般の受験生と同様に受験しますが、一定の優遇措置があります。ほぼ、確実に合格できる場合や、当日の得点に一定の点数を加点する場合などがあります。
- ▶ 第1志望優遇の場合は、費用の延納はできません。

(5) 入試相談

- ▶ 推薦や第1志望・併願優遇制度の利用を希望する生徒について、事前に高校側と相談をします。中学側から受験希望者を提示し、高校側は受験の可否や合格の可能性を提示します。
- ▶ 入試相談は、例年12月15日から行っており、多くは年内に締め切られます。
- ▶ 入試相談で、受験の希望を提示しないと、推薦入試や優遇が受けられないのが通常です。
- ▶ 推薦や第1志望優遇、併願優遇制度の利用を考えているご家庭は、11月の三者面談の頃には具体的な学校名をあげて担任と相談する必要があり、12月の三者面談で受験の意思決定をすることになります。
- ▶ こうした入試制度を利用する場合には、説明会・相談会などに親子で参加していることを条件とする高校が多くあります。夏休み中から説明会、学校見学、体験などを開催する高校が多いので、興味・関心のある高校については、ホームページなどで、今から調べておくことをお勧めします。

(参考) 私立高校の情報を、以下のサイトで調べることができます。

一般財団法人 東京私立中学高等学校協会 <https://www.tokyoshigaku.com/>

右のQRコードを読み取ると、アクセスできます。



進路決定へ向けてのポイント

1. 自分にとってのよい学校

よい学校 ≠ 入試のレベルの高い学校 → レベルの高い中で競い合うこともできるが、ついていけないパターンも…

よい学校 = 自分に合った学校 → 3年間、充実した生活を送れる学校

ただ単に、学力が高いとか、有名だからとか、一面的なとらえ方をしないで、本当に自分の目的にあった進路先はどこなのか、どこなら自分のやりたいこと、自分の理想とする高校生活を送れるのか、本当に自分の力を伸ばして、将来に結びつけていける進路先はどこなのか、などの広い視野を持って考えていくことが大切です。

2. 学校選びのポイント

(1) 進路の選択は、現在の自分自身を正直に見つめる

進路決定にあたっては家族や教師、先輩や友達のなどのいろいろな人の意見を参考にし、テストの結果などの学力面、興味や関心、性格や経験などを十分に把握し、自分についてじっくりとまとめてみる必要があります。

- 現在の学力
- 自分の性格
- 体力や健康状態
- 家庭の状況
- 将来の見通し(社会人としてどのような道をめざすのか、興味のある分野は何か、そのためにどのような道筋で学んでいくのか)

(2) どのような視点で志望校を選んだらよいか

社会人として自立する将来のことを考え、数年先の自分の生活をイメージしながら、どのような進路が望ましいか考えましょう。

- 教育方針が自分の性格や希望にあっているか
- 学校の形態(男子校・女子校・共学校)はどうか
- 自分にあつた科やコースがあるか
- クラブ(部)活動や学校行事は活発か
- 校則や生活指導は、自分の性格にあっているか
- 環境や設備はどうか
- 通学時間に無理はないか
- 費用に無理はないか
- 学力レベルはどうか

これらのことを自ら振り返り、そして家族や先生との話し合いの中でアドバイスを受け、徐々に具体的な進路を考えていきましょう。進路先でどのように自分を生かしていくのか、伸ばしていくのかをよく考え、目標を定めて努力し、最終的には自らの判断で決定することが大切です。自分で選んでこそ、進路先での様々な苦難があっても乗り越えられる力となり、自信を身につけていけるのです。

(3) 自分で学校を調べ、実際に見て選びましょう

「百聞は一見に如かず」です。実際に学校を訪問し、見て、体験してみましょう。上級学校にしても就職にしても、自分の目で見ることはとても大切なことです。パンフレットや本に出ていることは、いわば宣伝文句。その学校の良いイメージだけかもしれません。1学期から夏休み、2学期にかけて、多くの学校で体験入学・見学会・説明会などが開催されています。積極的に参加し、自分の目と耳で学校の様子をつかむことが大切です。志望校を選択していく上でも、2～3校程度の学校見学は必要です。周囲のあいまいな噂に振り回されずに、各学校の特徴や入試制度について正しい情報を得るようにしてください。

直接学校まで行くと、受験ガイドには載っていない「生の情報」が手に入ります。また、9月からは、多くの上級学校で文化祭や体育祭が実施されます。この機会をどんどん利用して訪問しましょう。また、具体的に志望校が決まっている場合は、ホームページや電話による問い合わせなどで、自分で調べてみましょう。大切な3年間を過ごす場所を決めるのですから、必ず一度は足を運び、自分の目で確かめることが大事です。各校のホームページやインターネット、進路コーナーや廊下、進路のクラスルームの進路情報を見て、申し込み方法を確認し、早めに準備しておきましょう。定員に限りがある体験や見学会等もありますので、十分注意してください。

学校については、以下の方法で調べることができます。

- 「高校案内」の書物を利用する(店等で数多く売られています)。「2027年度入試」「令和9年度入試」という表示のものです。
- 兄弟姉妹や親戚、あるいは近所の先輩などに話を聞く。
- 実際にいくつかの高校などを訪問してみる。休み中でも、事前に連絡しておけば校内を案内してくれたり、説明をしてくれたりするところもあります。
- ホームページなどで新しい情報をいち早く得る。

自分からどんどん、見学に行きましょう。

(4) 第2, 第3希望も真剣に考えましょう

進路は生徒・保護者の意思だけでは決定しません。「だれを受け入れるか」は上級学校側が決めることです。東京都では子どもの数は年々減少傾向にあります。高校全体の募集人員が数年前のままならば、希望者全員を受け入れることも可能ですが、実際には受け入れ枠は生徒数の減少に合わせて削減されています。また、私立高校においては将来的な生徒数の減少に備えて、中学校での募集枠の拡大や高校での募集枠の削減を行うところが増えています。高校での募集をまったく行わなくなった学校もあります。生徒数が減ったからと言って、必ずしも入試の状況がよくなったとは言えません。

進路を考える際には、「ここがダメだったら、次はここ」というように、納得ができる第2, 第3希望の学校を考えておくことが大切です。

そのためにも、一つの観点だけで志望校を考えるのではなく、「学力面から選ぶ志望校」、「部活動や学校行事の様子から選ぶ志望校」、「通いやすさや環境で選ぶ志望校」など、多様に考えられるようになることが大切です。

3. 進路決定への主な流れ

進学を前提とした流れを簡単にまとめます。進路希望調査や三者面談がそれぞれどのように関わってくるのか、確認しましょう。

※詳しい日程はP.1の年間予定表と併せて確認してください。

(1) 到達度テスト

●1、2年の範囲も含めた学習の目標とし、学習に意欲的に取り組めるようにします。

●学習内容をどれだけ身につけているかを自覚し、今後の学習計画や進路の選択の参考資料とします。

①教科…国語・数学・英語・社会・理科の5教科

②実施回数…3回(6/29、8/28、10/9の予定)

③範囲…1、2年の総合問題+3年の学習したところまで

④結果の利用…面談の際の参考資料として活用します。結果を評定の資料としては使用しません。返却された答案で学習の状況や不十分なところを確認し、学習に役立ててください。

(2) 進路希望調査

●本校では、年間で4回の進路希望調査を実施いたします。回数を重ねることで、段階的に志望校を具体化させていきます。

1. 志望校の変化を正確に把握するため

学習状況や興味・関心の変化に伴い、中3生の志望校は刻々と変わります。定期的に調査を行うことで、常に「最新の意思」を学校・家庭で共有します。

2. 客観的なデータ(テスト結果)との照合

6月、8月、10月のテスト結果を受け、現在の学力と志望校の距離を客観的に測り、現実的な目標設定へとつなげます。

3. 仮内申・学校説明会を踏まえた「最終合意」の形成

特に後半の調査は重要です。11月以降に提示される「仮内申」「学校説明会」での手応えを照らし合わせ、願書提出に向けた最終的な意思確認を行います。

① 日程

◎**第1回 6月11日**(第1回面談:夏季休業中の三者面談の資料)「スタートラインを決める調査」

具体的な学校名よりも、現在考えている中学校卒業後の進路について、全日制か定時制・通信制か、公立か私立か、家からの通いやすさや学費の考え方など、大まかな方向性を、家庭と学校で共有することが目的です。この結果をもとに、7月の三者面談で、今の考えや不安を確認していきます。

◎**第2回 8月25日**「夏休みの情報を反映させる調査」

夏休み中に、学校見学や説明会に参加したご家庭も多いと思います。その経験や新しく得た情報を踏まえて、6月の希望からの変化や、志望校の候補を少し絞っていく段階になります。この調査では、学校選びのポイントなどと、夏休み中の学習状況、第1回到達度テストなどを踏まえて、自分の志望校としたい学校名を具体的に記入します。親子で話し合ったりする機会をもつようにしてください。

6月	6/11~25	第1回進路希望調査
	6/17~19	期末考査
	6/29	到達度テスト①
7月	7/4	出前授業
	7/21~31	三者面談①
8月	8/25~9/3	第2回進路希望調査
	8/28	到達度テスト②
9月	9/24~25	中間考査
10月	10/7~29	第3回進路希望調査
	10/9	到達度テスト③
	10/28	第2回進路説明会
11月	11/4~11/11	三者面談2
	11/12~16	期末考査
	11/17~30	第4回進路希望調査
	11/22	英語スピーキングテスト
12月	12/1~12/8	三者面談3
	12/15~	入試相談

◎第3回 10月7日(第2回三者面談の資料)「現実的な志望に近づける調査」

1学期の成績や第2回到達度テストの結果、秋の学校説明会の内容などを踏まえ、志望校をより具体的にしていきます。ここでの希望は、11月前半の三者面談で、受験校のレベルや併願の組み方を話し合うための大事な資料になります。都立中心か私立中心か、普通科か専門学科かはもちろん、受験日や推薦制度の利用などについても、具体的に考えておく必要があります。

※主な受験(検)パターン

	第1志望	第2志望
パターン1	都立(推薦/一次)	都立(二次)
パターン2	都立(推薦/一次)	私立(併願優遇利用)
パターン3	私立(推薦/第一志望優遇利用)	
パターン4	私立(一般入試)	私立(一般・併願優遇利用)
パターン5	私立(一般入試)	都立(一次)

※2学期には多くの学校が体育祭や文化祭を予定しており、中学生の参観も可能などところが多くあります。また、保護者や生徒対象の学校説明会を開くところも多くあります。これらの機会を利用して、志望校の候補に考えている学校について、より深く知る機会とすると良いでしょう。

◎第4回 11月17日(第3回面談の資料)「出願直前の最終確認のための調査」

仮内申と説明会での見学を経て、12/1からの面談で志望校・願書提出先を「最終確定」になります。私立推薦、優遇制度利用については、最終的な希望になります。私立の入試相談を希望するご家庭は、面談後速やかに「推薦または併願優遇願い」と、より細かい確認事項(受験日やコース名、利用する制度など)を提出することが必要となります。

(3) 三者面談 ※面談期間以外でも、必要に応じて面談を実施できます。

① 7月21日～31日(土日を除く)

1学期のようすと進路についての面談となります。第1回進路希望調査や到達度テストの結果などを参考にして、夏休みの学習の進め方の確認、進路についてのおおまかな方向性、志望校決定への見通しについて伺います。

② 11月4日～11月11日(土日を除く)

第3回進路希望調査や到達度テストの結果などをもとに、志望校最終決定に向けての面談となります。基本的な受験パターンや、私立推薦や優遇制度利用の希望も伺います。

③ 12月1日～12月8日(土日を除く)

第4回進路希望調査や到達度テストの結果などと、本人の希望や学習状況をもとに、志望校の意志確認をします。私立の推薦や優遇制度を利用する場合は、この面談で確定します。都立推薦についても、インターネットによる出願期間が12月に始まり、都立推薦入試の出願受付期間が3学期開始すぐであることから、冬季休業中に出願の準備が必要になるため、ほぼこの面談で受検校を決定します。私立の一般受験(フリー受験)や都立の一般受検校は、この面談でほぼ見通しを立てます。

4. 3年生の学習の進め方について

(1) 入試までの学習計画と学習内容

- 1・2年の総復習・苦手教科の克服
- 3年の範囲も含めた実力養成。問題練習など
- 志望校にあわせた対策、過去問題への挑戦など

↓

いつ頃までに、どんな方法で学習していくか。到達度テストなどを参考に、随時修正しながら進めていきましょう。



1 まずは1・2年生の復習から

入試で問われる問題のうち、6～7割は1・2年生で学習した範囲から出題されています。つまり、1・2年生の学習内容をしっかりと復習して自分のものにできているかどうか、大きなポイントになっていきます。

2 1・2年生の復習はいつまでに済ませるのか？

およその目安として夏休みが終わるまでに、一通りは終えておきましょう。入試に必要な各教科2年分を復習するわけですから、計画を立てて効率よく進めなければなりません。

3 どのように復習するのか

教科書の内容に沿っていくのが基本的なやり方です。しかし全ての教科書を読み直すだけでも、かなりの作業になります。まずはサブノートを作成して基本事項を埋めていく、わからない部分は教科書や授業のノートを見直す。2年生の教科書の類題で間違える部分があれば1年生の教科書まで戻って徹底的にやる。英単語や漢字は1・2年生の復習とは別に計画を立て、毎日5～10分でもコツコツと暗記・練習を進めていきましょう。

4 わかったつもりが一番キケン

1・2年で学習した基本事項を復習していると、ついつい「こんなことはもう知っている」と思ってしまいがちです。しかし、高校入試では基本事項を色々な面から問う問題が出されます。どのような問われ方をしても正解にできて初めて基本事項をマスターしたことになります。「もう知っている」とおろそかにせず、しっかりと復習して基本事項についての不安や誤解を無くしておきましょう。

5 調査書(内申書)も大切

都立高校の入試、私立高校の推薦及び併願優遇では、評価・評定が重視されます。テストの得点が高ければ調査書の内申も高くなるとは限りません。調査書はふだんの学習への取り組みを評価したものです。定期テストだけでなく、授業での取り組み、提出物、実技テスト、作品など、日常の授業や学習にしっかり取り組むことが、自分の希望実現への大きな鍵となります。日頃からしっかりと取り組んでいる人ほど評価されます。普段の中学校生活も受験勉強の延長線上にあるということです。

6 不得意教科を克服する

苦手科目はどうしても後回しにしがちです。早くから手をつけましょう。今から計画的に始め、夏休みにたっぷり時間をかけましょう。苦手と思うのは、わからない部分をそのままにしていることが原因です。わからないままで授業が進み、さらにわからないことが増えていくのです。苦手な科目は、1年生の教科書までさかのぼり、全ての例題や類題を解く。全問正解できなければそこが「苦手」の原因です。もし全問正解なら応用力不足が「苦手」の原因と言えます。その場合は薄い問題集から始め多くの問題を解く。わからない部分は参考書や教科書で確認する。大切なのは、単に「苦手」「嫌い」ではなく「どこがわからないのか」を明確にすることです。

7 3年生の勉強とのバランスを


受験生であると同時にまだ中学3年生なので、受験勉強を進めつつ3年生の勉強も必要です。また、中学校から送られる成績は3年生の成績です。3年生の日々の勉強そのものも高校入試に直結しています。まずは毎日の授業を真剣に受け、3年生の範囲は、今やっている授業の中でしっかり理解し、定期考査へ向けての学習で実力をつけましょう。家庭学習時間は1・2年生の復習にも費やされるので、3年生での学習範囲は授業を有効に使って勉強を進めることです。

必ず自宅で予習し、授業で要点を確認するという流れで授業を受ける。それにより3年の学習と1・2年の復習とが並行して進みます。また、両方をバランスよく、どちらかに偏ることがないようにしましょう。定期考査の2週間前には受験勉強を中断し、定期考査対策に臨みましょう。また、定期考査でできなかったところは、すぐに復習して完全に自分のものにしていくこと、これが一番の早道です。授業やテスト勉強をいいかげんにしておいて、直前になってから、あわてて復習をするのでは間に合いません。

8 学習プランの立て方

目標があるか？目標にあったプランを実行しているか？このことは毎日の生活の充実度につながります。特に高校入試を目指すお子さんにとって、いかに無理なく、無駄なく、確実に実行していくかが大きなポイントです。一日一日の時間はあっという間に過ぎてしまうので、計画性のある生活を送りたいものです。また、全てを犠牲にして勉強だけに絞ったプランは必ずと言っていいほど失敗します。家の手伝い、スポーツ、学校行事、レクリエーション、全てのバランスが取れたプランづくりをしましょう。次の3つのプランを立てると良いでしょう。

① 年間プラン…入試から逆算して1年間を3～4ヶ月で区切り、各期間の学習目標を決めるようにします。

4月～夏休み前 【基礎力充実】 夏休み 【基礎力完成】	1、2年の復習と不得意教科の勉強を中心に。定期考査の2週間前は定期考査対策に集中を。 1、2年生の総復習は終わらせ、苦手教科は集中的に学習を。	
9月～11月 【実力養成期】 11月～冬休み 【応用力養成】	3年生の範囲も含めて、問題にどんどんチャレンジ。ただし、できなかったところ、間違えたところをそのままにせず、理解できるまで考え、できるまで繰り返し問題を解き直す。わかるまで復習をすることが大切。自分の力だけではわからないところは、学校の先生に積極的に質問し、教えてもらう。今までの勉強に問題集を使った演習を加える。この時期は学校行事もあるので、こまめに時間を調整する。	
冬休み 【実践力】 1月～入試 【総仕上げ】	志望校が固まってきたら、その学校の過去問題に挑戦。問題の傾向を知り、合格の可能性を探る手がかりにもなる。過去問題は各学校で学校案内などと一緒に売っているところもある。また、書店でも手に入る。問題演習の勉強で判明した弱点は、この期間に克服を。志望校の過去問を解いて、出題パターンに慣れておく。この時期は意外と基本事項がおろそかになりがちになるので、こまめにノートや教科書を見直して確認をする。	

- ② 1週間のプラン…土日を上手に使えるかが鍵です。1週間で見たときの調整時間として考えておく。1週間ごとにチェックし、「もう少し数学の時間を増やそう。」「社会は英語より早い時間に勉強しよう。」などと修正していきましょう。
- ③ 1日のプラン…基準になるのは睡眠時間です。多少の個人差はありますが、7時間程度はとりましょう。睡眠時間を犠牲にしたプランは実行不可能です。部活動や塾など調整を効かせるための時間も、毎日1時間程度はいれておきましょう。

9 中身のある学習を

大切なのは時間ではなく、どんな勉強をするのかという中身です。量より質です。次のチェック項目を参考に、その取り組みを見直していきましょう。

授業は集中していますか？

授業は入試のための学力づくりの「基礎」です。話は集中して聞いていますか？別のことに集中していませんか？

ノートはきちんととっていますか？

板書をただノートに書き写すだけでなく、講義のポイントもメモしましょう。不必要な記述はしないように。

問題点はその場で解決していますか？

疑問点の放置は、苦手意識の原因にもなります。人に聞くなど方法はいくつもあります。積極的な態度で解決を！

宿題や提出物の期限は守っていますか？

与えられた課題は求められている内容をよく理解して期限内にきちんと提出しましょう。

全教科を大切にしていますか？

入試に関係する教科だけを勉強するという人がいますが、どの教科も一生懸命取り組んでいくことが大切です。

目標を持っていますか？

勉強する意欲は、目標がないと湧いてきません。志望校などを具体化して努力の目標にするのも良いでしょう。

計画を立てていますか？

行き当たりばったりの学習では身につけません。計画など自分で決めてから学習に取り組みましょう。

予習・復習をやっていますか？

予習の有無で、授業内容の把握に大きな差が出てきます。さらに、復習もすれば十分な理解が得られるはずです。

自分の弱点は分かっていますか？

得点よりも、自分はどこを理解していないのか、なぜミスをしたのか、確認しておくことが大切です。

定期考査に備えていますか？

直前になってつめこんだものは、テストが終わってしまえばすぐに忘れてしまいます。毎日の予習・復習とともに、試験に備えての要点の整理などをしていくとよいでしょう。それが受験(検)対策にもつながっていきます。

5. 確認・その他

① しっかりとコミュニケーションをとりましょう

志望校を決める時には、学力だけにとらわれないで、高校生活への希望や将来の進路などもよく考え、生徒本人の希望を中心にご家庭でもよく話し合い、よく相談してください。また、担任の先生ともよく相談をしてください。担任は、アドバイスはしますが、最後は、生徒本人とご家庭との話し合いで決定してください。

② 自分の足を動かし、目で見確認をし、自分の直感を大切にしましょう

志望する学校は、事前に必ず見学をしてください。説明会、体育祭、文化祭、体験入学、授業公開、相談会などチャンスはたくさんあります。

③ 方向性を決めましょう

都立か私立か、普通科か専門学科かなど、どちらを主に考えていくかは、2学期前半までには目処をつけましょう。特に、推薦を考えている場合は早めに情報を集め、担任に相談してください。

④ 利用しても、利用されないように

塾や夏に講習会などを利用する人も多いと思いますが、次の点には注意が必要です。

- ただ通っているということで、勉強をしていると錯覚することがないように気をつけましょう。与えられたものだけでなく、自主的に取り組み、自分の力で学習していくことが大切です。
- 塾や講習会の学習内容や進度が自分にあっているか、生活のリズムが乱れていないか。自分にあっていない場合、効果が上がらないだけでなく、かえってマイナスになる場合もあります。
- 自分の進路希望と塾等での学習内容があっているか、自分は都立志望なのに、塾では私立有名校対策クラスでは目的に合っていません。選択する段階でよく検討し、どのような内容に取り組むのかなど予定表を確認して、主体的な判断で決めましょう。友人と一緒にというのも、長所と短所がありますので、よく検討してください。志望先の決定にあたっては、塾などの指導に振り回されない、あくまで自分の希望を大切にしてください。「利用はしても利用されない」姿勢が必要です。

⑤ 一喜一憂せず、努力の継続を大切にしましょう

場慣れする意味も含めて外部模試等を受験する人も多いと思います。その結果や受験関係の書籍で示される合格の可能性(%)は目安であって、その数値があれば100%合格が保証されるものではありません。

⑥ 積極的に情報収集をしましょう

廊下や教室には、高校等から送られてきたポスターやパンフレット、説明会等のお知らせがあります。日々更新されているので、見落としのないようにしてください。他の人に探してもらって情報を得るのではなく、自分から見つけていく積極性をもつようにしましょう。

「中学校を卒業する」ということの本当の意味

中学校までは、教育を受けることは、みなさんの権利であり、同時に保護者の方の義務でもありました。しかし、卒業後に教育を受けることは、“契約”です。契約とは、お互いの自由意思に基づいて交わす約束という意味です。未来の日々は、権利でも義務でもなく、契約を交わす両者の意思によって決まります。

そのため、中学校卒業後の進路決定には、自分の意思をきちんともつことがなによりも大切です。遠い将来の自分を想像することは、楽しくワクワクします。しかし、期待する自分自身を現実のものにしていくためには、期待し思うだけでは不十分です。自分としっかり向き合い、自分を知り、自分の力を高める努力をしていかなければなりません。そして、自分の人生を選択し、決定していかなければなりません。それは、人生の難しい関門であり、一人の人間として大きく成長するチャンスでもあります。しっかり立ち向かってください。3月には、みなさん一人一人が、自分の意思でしっかりと契約を交わして、希望に胸をふくらませてそれぞれの進路先へと巣立つことを願っています。

保護者の皆様へ —お子様の進路決定を支えるために—

進路選択は、お子様が一人の人間として自立していくための重要なステップです。保護者の皆様には、人生の先輩として、また最も身近な理解者として、以下の5つのポイントを念頭にお子様を支えていただければ幸いです。

1. 本人の主体性を尊重し、見守る

お子様を一人の個人として尊重し、過度な手出しや口出しは慎むことが大切です。未熟ながらも迷い、前進しようともがいている姿を温かく見守ってください。アドバイスを送る際は、現在の学力だけでなく、本人の性格、行動、興味・関心などを総合的に踏まえ、適切なタイミングで冷静に伝えるよう心がけましょう。

2. 未熟な行動には、毅然とブレーキをかける

尊重することと放任することは異なります。お子様はまだ未熟な未成年であり、プレッシャーから楽な方へ流されたり、手を抜いたりしてしまうこともあります。そのような時には、迷わず本気で叱り、進むべき方向を修正してあげることも、保護者としての重要な役割です。

3. 親子の相互信頼を基盤にする

納得のいく進路決定のためには、親子間の信頼関係が欠かせません。本人の意志を尊重し、信頼を寄せた上で、親子で納得がいくまで十分に話し合い、最終的な合意形成を目指してください。

4. 家庭を「心安らぐ居場所」にする

受験期のお子様にとって、家庭は勉強の疲れや不安を癒やす「温かい灯(ともしび)」であるべきです。受験生だからといって特別扱いすぎたり、逆に関心を失ったりするのではなく、適度な家庭内の役割も与えつつ、お子様が安心して過ごせる心地よい環境を整えてあげてください。

5. 情報に惑わされず、「我が子」を正しく見る

受験期は周囲の情報に過敏になりがちですが、不確かな噂や古い情報(「昔はこうだった」といった批評など)に振り回されないよう注意しましょう。大切なのは、学校の教育方針や校風を親子でしっかり調べ、「我が子」にとって本当にふさわしい場所はどこかを共に考えることです。お子様が主体的に進路を選択できるよう、地に足の着いたサポートをお願いいたします。

〈巻末資料1〉 ESAT-J について

中学校英語スピーキングテスト(ESAT-J)は、中学校の授業で学んだ英語で「どのくらい話せるようになったか」を測るためのスピーキングテストです。令和4年度から、都内公立中学校3年生を対象にした「ESAT-J」の実施を開始、令和5年度から、中学校1年生対象の「ESAT-J YEAR 1」、2年生対象の「ESAT-J YEAR 2」を開始しました。令和6年度に、中学校3年生対象の「ESAT-J」を「ESAT-J YEAR 3」という名称に変更しました。

スケジュール ※詳細につきましては、修学旅行保護者会のときにお知らせします。

令和8年7月2日	ESAT-J YEAR 3 受験申込・受験上の配慮申請 受付開始
令和8年9月4日	受験上の配慮申請 締め切り
令和8年9月16日	ESAT-J YEAR 3 受験申込 締め切り
令和8年11月22日	ESAT-J YEAR 3 本試験日
令和8年12月13日	ESAT-J YEAR 3 追・再試験日

〈巻末資料2〉 奨学金制度・学費負担軽減制度について

〔奨学金制度〕

現在、交通遺児育英会、あしなが育英会、財団法人東京都私学財団(東京都育英資金)の3つの団体より、案内が来ています。団体によって締め切りが異なるので、随時お問い合わせください。詳しい内容については、資料「奨学金・貸付金等のご紹介」を参照の上、各団体のホームページをご覧ください。

- 交通遺児育英会 <https://www.kotsuiji.com/>
- あしなが育英会 <https://www.ashinaga.org>
- 財団法人東京都私学財団 <https://www.shigaku-tokyo.or.jp>

(進路だよりでもホームページのQRコードをお知らせしております。)

その他 ○生活福祉資金貸付制度 教育支援資金制度

○受験生チャレンジ支援貸付金制度

問い合わせ:三鷹市社会福祉協議会 0422-46-1108

○高校入学後に各高校からも奨学金制度についての紹介があります

〔学費負担軽減制度〕

私立高校には、以下の学費負担を軽減する制度があり、いずれも返還不要です。詳細は、「公益財団法人 東京都私学財団」のサイトで確認できます。右のQRコードを読み取ると、サイトに入れます。



● 就学支援金(国の制度)

私立高等学校等に通う生徒が安心して勉学に打ち込めるよう、授業料の一部に充てる費用として「高等学校等就学支援金」等を国が学校に支払い、家庭の教育費の負担を軽減する制度です。国の法律に基づく全国一律の制度で、東京都においては、申請情報に係る所得審査等の事務について、私学財団が東京都から受託し、東京都私学就学支援金センターで行っています。

● 私立高等学校等授業料軽減助成金(都の制度)

生徒と保護者が都内に住所を有している場合、私立高等学校等に通う生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、国の就学支援金とあわせて都内私立高等学校の平均授業料まで都が助成する制度です。

● 私立高等学校等奨学給付金(都の制度)

保護者が都内に住所を有している場合、私立高等学校等に通う生徒の保護者等の経済的負担を軽減するために、授業料以外の教育費(教材費、学用品費等)を助成する制度です。

〈巻末資料3〉 推薦受験(検)資格認定について

令和8年4月1日
連雀学園三鷹市立第一中学校

推薦受験(検)資格の認定について

1. 学校推薦の趣旨

推薦制度は、本校と高等学校との信頼関係に支えられている制度であり、その信頼関係を損なうようなことがあれば、本校の下級生の来年度以降の受験に悪影響を及ぼすことにもなりかねません。推薦を希望する生徒は、日頃の学校生活において、本校の目指す生徒として、また高等学校が求める生徒としてふさわしい自覚と言動を心がけてください。

2. 推薦認定の基準

都立・私立推薦制度の利用希望者は、以下の項目をすべて満たしていることが条件となります。
なお、推薦の認定については、学校全体で検討し、最終決定は学校長が行います。

- ① 志望校(学科、コース)に対する興味・関心があり、志望目的が明確でその理由が適切であること。
 - (1)志望校への入学を強く希望しており、合格後は必ず進学することを確約できる。
 - (2)志望校を本人が個別相談・見学をしている。
 - (3)志望理由や入学後にやりたいことがはっきりしている。
 - (4)入学後、学習活動だけでなく、生徒会・行事・部活動等に参加し、高等学校卒業までその意欲を継続することができる。
- ② 学校生活を健全かつ良好に過ごしており、三鷹一中を代表することを自覚し、中学校在学中および志望校進学後もその姿勢を確実に継続できること。
 - (1)時間を守り、出席状況が良好である。
 - (2)学校の指導を受け入れることができ、社会や学校のルールを遵守して学校生活をおくっている。
 - (3)主体的に学習に取り組み、学習状況が良好である。
- ③ これらの条件に加えて、高等学校の定める基準を満たしていること。

〈巻末資料4〉 入試でよく使う用語

換算内申

調査書の各教科の評定の内、一部を換算して総計した数値(満点65)

主に、都立高校の調査書点の計算に用いられる。

素内申

調査書の各教科の評定の数字を総計した数値(満点45)

主に、私立高校の推薦入試や、各種優遇を受ける際に基準として使われる。

推薦基準(優遇基準)

高校側が示す、出願条件となる基準の数値。ほとんどの私立高校では素内申で提示される。学校によっては、諸活動の記録によって加点措置がある。

合格基準

その学校に合格するための学力的な目安となる数値。合格最低点はその年度の受験結果で、これとは異なる。

受験倍率

受験者数÷募集定員数

実際の受験時の倍率。募集定員数と合格者数は必ずしも一致しない。

志願倍率(応募倍率)

志願者(応募者)÷募集定員数

志願(応募)段階での見かけ上の倍率。

適性検査

美術、音楽、体育等の専門的な学科やコースで行う実技試験のことを指していたが、最近の私立推薦入試では、学科に関する小テストの意味合いが強い。

実質倍率

受験者数÷合格者数

受験時の実際の倍率。

併願優遇校

第一志望校に対し、第二志望以下の学校。その学校より上位の志望校に不合格だった場合、進学するという条件で優遇を受ける学校。基本的に1校のみ。

併願校

第一志望校に対し、第二志望以下の学校。入試日程が被らない限り、何校設定してもよい。

公立併願

併願優遇を受ける際の条件として、公立(都立)高校に不合格だった場合に進学することを約束する。他の私立高校は受験できない。

公私併願

併願優遇を受ける際、公立・私立を問わず、その学校よりも上位の志望校に不合格だった場合に進学することを約束する。入試日程が被らなければ、他に何校受験してもよい。



連雀学園三鷹市立第一中学校

進路指導部